



運動推進 NEWS

まちづくり60年 そして未来へ

令和5年3月号 第216号

(令和5年3月31日)

公益社団法人 東京のあすを創る協会

中央区八重洲2-11-7 東栄八重洲ビル6階

Tel 03-3272-0213 Fax 03-3272-1257

Eメール tou-asu@netjoy.ne.jp

◇コロナ禍を脱して、東京のあすを考える 事務局長 藤本龍夫

3年にもわたり猛威を振った新型コロナウイルス感染症の流行も、ようやく下火になってきました。どこへ行くにもマスク着用を求められてきましたが、その着用義務も解除されるなど徐々に3年前の日常に戻つつあります。東京の空の玄関口、羽田空港の国際線ターミナルも活気が戻り、国際線の航空機が次々と飛び立っていました。また、海の玄関口としてお台場に新設された東京国際クルーズターミナルには、初めての外国クルーズ船が寄港しました。さらに、東京国際マラソンが規制のない開催となり、沿道には多くの観客が集まりあたたかい声援を送っていました。そんないろいろな場面で戻ってきた日常ですが、残念ながら3年前の平和な社会に戻ることができない事態も発生しました。昨年、2月にロシアのウクライナ軍事侵攻が始まり、1年経過しても予断を許さない状況が続いています。遠く離れたウクライナでの戦火ですが、ロシア産天然ガスの供給停止に端を発して世界的なエネルギー需給バランスが崩れて、日本でも諸物価の値上げが続き、とりわけ電気ガス料金の高騰は生活を脅かす事態となっています。あらためて、想定できない出来事に遭遇することが多いと実感させられます。



3/3 出発を待つ国際便の列 (羽田空港国際線ターミナル)



3/3 ドイツのクルーズ船「アマデア(旧:飛鳥)」 (東京国際クルーズターミナル)



多くの人が行きかう東京駅構内



3/5 東京マラソン 先頭集団(日本橋)



東京マラソン 後続集団(日本橋)

さて、人は長くても100年にも満たない人生ですが、どれだけの災害、大事件に遭遇するのでしょうか。今からちょうど100年前、1923年(大正12)に関東大震災が起きています。その後日中戦争、太平洋戦争と戦禍が続き、1995年に阪神淡路地震、2011年に東日本大震災が発生、そして新型コロナウイルス感染症が日本を含めた全世界を恐怖に慄かせました。更には、ロシアがウクライナに軍事侵攻し、核戦争の可能性さえ囁かれています。地球上の遠く離れた地で起きた出来事もたちどころに伝えられる現代の情報技術の発達も、より恐怖を増幅させてもいますが、今後どんなことが起きるのかは想像するのは難しいことです。しかし、災害そして大事件は必ずやってきます。どんな困難が待ち受けようが、生き抜かなければなりません。そして、明日を担う子ども世代、孫の世代により良く引き継いでいくために、今をそして将来を見据えた解決を見出さなければなりません。特に、地球温暖化の問題は待ったになしです。今に始まったことではない少子化の問題も、にわかには始められた異次元の対策で解決可能でしょうか。地球の危機、人口減少という現実そして未来をも見据えて、高い意識を持って地に足をつけた活動が、東京のあすを創るために、何よりも必要です。

◆東京都生活学校連絡協議会学習会 地球温暖化ストップ・次世代のために

10月21日に行われた第1回目の学習会後、コロナ感染症第8波の影響で延び延びになっていた第2回目の学習会が、3月17日に東京都消費生活総合センターにおいて開催されました。各生活学校のリーダーを中心に14名が集まり、前回同様に事務局が作った資料に基づき今回は対策編として、①世界の温暖化対策、②日本の温暖化対策、③東京の温暖化対策、そして④個人でできる10の行動、の項目に分け進められました。

温暖化対策は、CO₂の排出を如何に削減するかですが、気候変動枠組条約の締約国会議(COP)では、温暖化対策を温暖化を抑制する「緩和」と、温暖化への「適応」とに分けて提示していて、温暖化を防ぎ切れなかった場合も想定した対策となっています。日本の対策は、政府の総合計画(2021年12月)「2050年カーボン



第2回学習会(東京都消費生活総合センター)



第2回学習会 資料

ニュートラル」宣言し、2030年度46%削減を目標とするとしています。詳細な計画ですが、その実行性については課題も多いと感じられます。イノベーション支援により水素・蓄電池等の研究開発が期待される所です。一方、東京都の対策は、気温上昇を1.5℃に抑えることを目指し「ゼロエミッション東京戦略」(2019年12月)を定め、昨年には全国で初めて太陽光パネルの設置を義務づける条例を制定しています。最後に、国連がパンフレットを作り奨励している「いますぐ動こう、気温上昇を止めるために 個人でできる10の行動」I 家庭で節電する、II 徒歩や自転車で移動する、または公共交通機関を利用する、III 野菜をもっと多く食べる、IV 長距離の移動手段を考える、V 廃棄食品を減らす、VI リデュース、リユース、リペア、リサイクル、VII 家庭のエネルギー源をかえる、VIII 電気自動車にのりかえる、IX 環境に配慮した製品を選ぶ、X 声を上げる について学び、できるだけの実践を約して学習会を終了しました。

◇事務局長(常務理事)が交代します

4年間在職していた藤本龍夫常務理事・事務局長が3月末で退任することとなり、臨時社員総会、臨時理事会での承認を経て、後任には鈴木正一<東京都教育庁局務担当部長・東京学校支援機構派遣>が4月1日より就任します。引き続き、よろしくお願いいたします。

▽ひとこと 地球温暖化は、生活習慣病かもしれない。普段の生活の不摂生が積み重なり、入院治療が必要な段階になっているかもしれない。これまでの生活を維持することはできない、20年前の水準の体重まで落とさなければ命はないと、主治医から警告を受けたというところか。そんな危機的状況にもかかわらず、当の本人は、まだ大丈夫だろう、それほど問題じゃない等々自覚に欠けている場合が多い。そうこうしている間も、病気は進行して、いよいよ症状が顕著になり様々な合併症も発症してきて、にっちもさっちも行かなくなり最悪入院せざるを得ない状況に至る。地球は今、医者の明確な診断を受けて、体重を落として血圧を下げ、大きく体質改善を図らなければ命が危ないと、宣告された状況だろう。漫然と今までの社会生活を続けていたら温暖化は加速度的に進行して、人類の生存に大きな影響を与えることになってしまう。分かっているにもかかわらず今までの生活を大きく変えることもできない。そのうち特効薬のような画期的な科学分野での発明により、一挙解決してくれるだろう、なんて他力依存に頼むしかない。意思強く生活を改善して病気を克服するのは、言うは易く行うはやはり難しいのです。しかし、地球の命運、子ども孫世代の生活、命がかかわってくるのです。今、何をすべきか明白です。今、やるだけです。では、ご精読ありがとうございました。(竜)